



暦の上では立冬を迎え、冬の気配が一気に近づきそうですね。

読者の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

ニュースレターVol.198.11月号をお届けします。

是非ご一読いただき、皆様の活動にお役立てください。

今後も皆様の活動に有用な、できるだけ多くの情報をお届けしますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願ひします。

編集部 一同

□■トップメッセージ■□

大学でのファッショントロス削減の取組

岡山 朋子

大正大学地域創生学部地域創生学科 教授

かつて日本では古着や故繊維のリユース・リサイクルが盛んでしたが、1985年以降の産業構造の変化により縮小しました。現在、国内で供給される衣類約80万トン（2022年）のうち47万トンが廃棄され、リユース・リサイクル率はいずれも2割に満たず、衣類自給率も2024年時点ではわずか1.4%にとどまっています。それにも関わらず、現在、製造や流通の過程で廃棄される余剰衣類や、まだ着用できるにもかかわらず捨てられる衣類、すなわち「ファッショントロス」が増え、社会問題になっています。さらに、タンスに眠ったままの退蔵衣類、いわゆるタンスの肥やしも、将来的なファッショントロスの予備軍といえます。これらは消費者一人ひとりの行動に大きく関係しており、対策が急務です。

このような状況を受けて、大正大学地域創生学科では、2024年の夏から秋にかけて「ファッショントロス3Rプロジェクト」という社会実験を実施しました。本プロジェクトは、ファッショントロス削減とエシカルファッションの普及を目的としたもので、衣類の回収・衣類の交換会・リメイクワークショップ・エシカルファッショントロス削減の4つの活動を展開しました。運営には一般社団法人エシカルモデル協会が協力し、学生が中心となって企画・広報・運営を担当しました。

回収対象は学生・教職員・地域住民の不要衣類で、寄付として集めた後、「ふくのわプロジェクト」を通じてパラアスリート支援に役立てました。交換会では持ち寄りと持ち帰りを自由に行える仕組みとし、リメイクワークショップでは古着やハギレを利用して小物を制作するなど、参加者がリユースやリメイクの楽しさを実感できる内容としました。

回収では60人から合計702枚（192.4kg）の衣類が集まり、交換会で引き取られた後、最終的に約500枚が寄付されました。特に区報掲載後には一般的な持ち込みが増え、地域への波及効果が確認されました。広報面ではポスターとSNSの併用も効果的で、今後の常設回収を望む声も多く寄せられました。

また、足立区の一般消費者233人を対象としたアンケートでは、不要衣類を「可燃ごみ」として処分する人が最も多く（42.1%）、特に男性にその傾向が強いことがわかりました。一方、女性は譲渡やリユース行動に積極的でし



た。「回収場所が近ければ利用したい」と答えた人は53.7%であり、アクセスの良さが重要な要因であることが明らかになりました。和服は高齢女性に多く、長期退蔵傾向が強いことがわかりました。リメイクへの抵抗感は一部に見られましたが、社会的意義があれば回収・再利用の可能性があることも確認されました。

これらの結果から、消費者は「再利用が望ましい」と考える一方で、実際には40%以上が不要衣類を可燃ごみとして捨てていることから、意識と行動が伴っていないことがわかりました。しかし、大正大学の社会実験では、家庭に眠る衣類を寄付という形で回収することで、廃棄行動の抑制と意識の変容を促す効果が見られました。また、アクセスしやすい回収場所の設置が行動を後押しする大きな要素であることも確認されました。フリマアプリなどを利用したリユースは一部の若者に限られており、利用未経験者への普及が課題です。行政による資源回収制度は効果的であるにもかかわらず、住民の認知度が低いため、広報強化が不可欠です。大学や公共施設と連携し、定期的な回収ステーションを設け、リメイクワークショップやリペアカフェを同時開催するなど、官民協働の仕組みづくりが求められます。

なお、退蔵衣類をリユースすることには、別の意義もあります。近年増加している水害では、浸水被災家屋から大量の衣類が災害廃棄物として発生し、焼却処分されています。つまり平時から不要衣類をリユースして退蔵衣類を減らしておくことは、災害廃棄物のリデュースにもつながるのです。

大正大学のファッショナロス削減の取り組みは、地域・行政・学生をつなぐ循環型社会づくりの実践例です。同様の取り組みとしては、例えば名古屋市でも、NPO・行政・大学による協働の不要衣類回収が実施されました。合格者のみなさんも、どうかお住まいの地域で、仲間を募って、ファッショナロス3Rの取り組みを実践してみてください。

【プロフィール】



岡山 朋子（おかやま ともこ）

大正大学地域創生学部地域創生学科 教授

循環型社会政策論が専門

名古屋大学法学部卒業、名古屋大学大学院国際開発研究科、名古屋大学大学院環境学研究科修了

おかえりやさいプロジェクトリーダー

□■□「エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度」認定における試験免除のご案内□■□

「国家戦略・プロフェッショナル検定」において「エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度」というものがありますが、資格のレベル認定における「試験免除」が実施されており、本検定合格者もその対象となります。

具体的には、「3R・気候変動検定」に合格された方で

- ◆ 2年の実務経験（時期不問）があれば申請によってレベル2の認定取得が可能
- ◆ レベル1を申請の場合は、申請だけで認定の取得が可能（実務経験不要）となります。

詳細は、一般社団法人産業環境管理協会ホームページ（<http://www.jemai.or.jp/eemanager/about.html>）
または、内閣府ホームページ（<https://www5.cao.go.jp/keizai1/jissen-cu/jissen-cu.html>）をご覧ください。

□■エコネット近畿より■□

◆「KANSAI 脱炭素months」について

11月から12月を推進期間と位置づけ、期間内に関西圏で開催される
脱炭素に関するイベントの情報発信を行っています。

関西圏のイベントをまとめたイベントカレンダーもホームページで公開中！

11月、12月に開催されるイベント情報を募集しておりますので、
掲載をご希望の方は、下記リンクより実施要領を確認の上、申請ください。

KANSAI 脱炭素months：<https://kansai-datsutanso-months.studio.site/>

地球研では、デザインやアートにかかわる方々に環境問題に触れて頂き、デザインやアートの力をお借りするためのきっかけづくりとなるようなプログラムを試行すべく、参加者を募集しております。

デザインは、アート的なものだけでなく、社会デザインや製品デザイン、企画デザインなども含む、広い概念で考えております。ぜひ、ご参加をご検討いただけませんか？

転送なども大歓迎です！

★なお、12月10-11日には、連携企画として、国際シンポジウムも開催します。こちら単独のご参加も歓迎です。

○第20回地球研国際シンポジウム（同時通訳あり）

Knowledge and Training for Green Transformation

グリーン社会変革に向けた知識と人材育成

⇒ <https://www.chikyu.ac.jp/rihn/events/detail/312/>

=====

地球研グリーンデザインラボ 参加者募集！

猛暑や熊の被害など、地球環境問題に端を発する異変が身近に感じられるようになりました。この課題解決には、一人ひとりの行動が重要ですが、とつつきにくいテーマもあります。私たちは、この課題を多くの方と共有するために、アートやデザインの力もお借りしたいと考えています。そこで、アートや幅広いデザインにかかわる方々との対話と学びの場を開設することになりました。

難しいことも書いていますが、環境問題が気になる方、新しいテーマや切り口、出会いに興味がある方、京都や伝統文化に触れてみたい方、ぜひ気軽にお問合せ／お申込みください！

◆募集対象：芸術・デザイン系の大学生・大学院生及びアーティスト・デザイナー（専攻・ジャンルや経験・実績は問いません。自由な発想でご参加ください。）

◆参加費：無料 ※ご相談の上、参加にかかる旅費の一部や、作品制作にかかる費用の一部を補助する予定です。

◆応募方法・選考

所定フォームより応募：<https://tinyurl.com/27h7daje>

応募締め切り（一次） 11月10日 ※その後も順次受け付ける予定です。

選考結果は11月中旬までにメールにて通知します。

★国際シンポジウム（12月10-11日）を含むプログラムに、一定程度参加できる方を優先します。

※詳細：<https://eco.kyoto-u.ac.jp/sdgs/kyoto-times/7426/>

3 R・気候変動関連の意見・アイデア・情報・人材募集

【1】ニュースレター「R」でつながるへの寄稿をお願いします！

寄稿を受け付けているのは次のコーナーです。なお、お寄せ頂いた方の中から、反響の多かった記事に（甲乙つけがたい場合は抽選で）素敵なプレゼントを差し上げます。プレゼントを希望される方は、希望番号もお書き添えください。

◆合格者の声：名前、活動エリア・都道府県、所属団体、なぜ受けようと思ったのか？受けてみての感想は？今後の活動の夢や目標は？公式テキストのおすすめページは？

◆読者の投稿コーナー

○イベント情報・宣伝：自分や自分の所属する団体（行政や企業を含む）がこれから実施するイベントを紹介してください。ご自身のお名前（紹介者として掲載します）、イベントタイトル、日時、場所、概要（100字程度）、申込み方法、紹介WEBサイトなどをご連絡ください。

○イベント報告：自分や自分の所属する団体（行政や企業を含む）が実施したイベントについてご報告ください。写真なども添えて、楽しいご報告を！（200字以内）

○リーダーお薦め&お役立ち情報：3 R・気候変動に関連して、

「この本は目から鱗だった」

「このグッズはすごく3 Rだ」

「こんな勉強会をやつたらとてもうまくいった」

「ここを訪ねたらとても勉強になった」

「ここ3 Rゆるキャラはよくできている」

などの耳より情報をお待ちしております。100～300字程度で。

◆今月の一枚：3 R・気候変動に関する写真にメッセージを添えて。

【応募方法】

- 募集元：一般社団法人持続可能環境センター 担当：ニュースレター編集委員会
- 応募先：ex@3r-cc.jpまでお送りください。ご質問等もこちらへ。

【プレゼントの例】

- 1.合格者バッチ（定価：1,000円）
- 2.書籍「環境学～21世紀の教養～」（定価：2,700円+税）
- 3.高月紘（ハイムーン）お手製グッズ
- 4.本検定代表（浅利美鈴）のソロモン諸島お土産セット
- 5.ふろしき研究会提供のふろしき

【2】プロジェクトアイデア募集しています！

3 R・気候変動リーダーズクラブでは、「こんなことに取り組みたい！」「こんなことに取り組んでみたら？」という意見やアイデアなどもお待ちしております。ex@3r-cc.jpまでご連絡ください

■最近のニュース

◆環境省

○「令和7年度脱炭素実現に向けた統合的取組実装モデル支援事業」参加企業の決定について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00956.html

環境省では、炭素中立、循環経済、自然再興をはじめとした複数の環境課題の統合的取組・開示を後押しするため、本事業を開始し、令和7年8月8日（金）から同年9月16日（火）17時まで参加企業を公募しました。審査の結果、3社を支援対象として決定しました。

■ 参加企業（50音順）

1. アスクル株式会社
2. 株式会社極洋
3. 大日本印刷株式会社

○令和7年度小型家電リサイクル制度の普及啓発イベント実施のお知らせ

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00988.html

環境省では、小型家電リサイクル協会、自治体等と連携し、小型家電リサイクル制度の普及啓発及び回収量拡大を目的とし、パソコンの解体教室や、使用済み小型家電の回収等の環境イベントを開催します。

○デコ活応援団第18回会合の開催結果等について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00890.html

「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）の進展状況を報告します。

- ① デコ活応援団（官民連携協議会。会員数2,706）第18回会合を、令和7年9月19日（金）に開催しました。
- ② 前回報告（令和7年6月25日（水））以降、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る各主体の取組・製品・サービス等を31件、追加で御登録いただきました。
- ③ これまで累計15,721の組織・個人の皆様にデコ活宣言をしていただきました。

○国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）ジャパン・パビリオンのウェブサイトを開設しました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01103.html

環境省は、国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）に向け、我が国の取組・環境技術の展示や開催予定のセミナーに関する情報を掲載したCOP30ジャパン・パビリオンのウェブサイトを開設しました。

○2025年日本国際博覧会における環境教育・ESDプログラム「CONNECTING YOU TO～能登・ケニア・マレーシア・フィリピン～」を開催しました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01007.html

環境省が主催する環境教育・ESD プログラム「CONNECTING YOU TO～能登・ケニア・マレーシア・フィリピン～」を、令和7年8月27日（水）～8月31日（日）に2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）会場内のジュニア SDGs キャンプにおいて開催しましたので、お知らせします。

○2025年日本国際博覧会における環境教育・ESD プログラム 「SDGs Students Dialogue Expo 2025」を開催しました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00999.html

環境省が主催する環境教育・ESD プログラム「SDGs Students Dialogue Expo 2025（以下「SSDE」という。）」を、令和7年9月4日（木）・5日（金）に2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）会場内のジュニア SDGs キャンプ（サステナドーム）において開催しましたので、お知らせします。

○国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）ジャパン・パビリオンにおけるバーチャル展示の採択結果について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00837.html

環境省では、2025年11月にブラジル連邦共和国・ベレンにて開催される国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）で設置される、ジャパン・パビリオンでのバーチャル展示について、2025年6月12日～同年9月17日まで公募し、応募された技術・製品・サービス等を審査した結果、58件を採択しましたので、お知らせいたします。

○低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物の無害化処理に係る大臣認定について（ゼロ・ジャパン株式会社）

⇒ https://www.env.go.jp/press/110951_00011.html

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の規定に基づき、低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物について高度な技術を用いた無害化処理を行い、又は行おうとする者は、環境大臣の認定を受けることができることとされています。

この度、ゼロ・ジャパン株式会社より申請のありました廃棄物処理法に基づく低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物の無害化処理の認定申請について、令和7年10月3日（金）付けで認定を行いました。

○低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物の無害化処理に係る大臣認定について（株式会社かんでんエンジニアリング）

⇒ https://www.env.go.jp/press/110951_00010.html

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の規定に基づき、低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物について高度な技術を用いた無害化処理を行い、又は行おうとする者は、環境大臣の認定を受けることができることとされています。

この度、株式会社かんでんエンジニアリングより申請のありました廃棄物処理法に基づく低濃度ポリ塩化ビフェニル廃棄物の無害化処理の認定申請について、令和7年10月3日（金）付けで認定を行いました。

○「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2025：世代をこえて考える、 気候危機のこれから～こども・ユースの声をきっかけに広がる対話～」 の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00987.html

環境省は、ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2025 を、文部科学省及び ESD 活動支援センターと共に、令和 7 年 12 月 7 日（日）に立教大学池袋キャンパスにて開催します。「SDGs 達成の鍵」とされている ESD に関わる学校・団体・企業等、全国各地から多くの方々の御参加をお待ちしています。

○環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」の新規認定について（三光株式会社 潮見コンビナート）

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00998.html

〈鳥取県同日発表〉

持続可能な社会の担い手を育成するための環境教育においては、五感を使って学びを深める体験活動を行うことが重要です。環境教育等促進法に基づき都道府県知事等が認定する「体験の機会の場」は、安全性の基準を満たし、質の高い体験プログラムを提供する体験活動の場となっています。この度、鳥取県境港市にある三光株式会社 潮見コンビナートが鳥取県知事より「体験の機会の場」として新たに認定されましたので、お知らせします。現在、本施設を含め全国 36 か所が認定されています。

○パンフレット「深刻化する豪雨～我々はどのようなリスクに直面しているのか～」を作成しました。

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01295.html

1. 環境省では、実際に発生した気象災害を対象に、現在よりも地球温暖化が進行した状況下でどのような影響をもたらすようになるか評価する事業を実施しています。

2. 「平成 30 年 7 月豪雨」を対象に評価したところ、降水量及び河川流量の最大値が増加し、より深刻な災害につながる可能性が示唆されました。

3. 気候変動の身近なリスクを知っていただき、今後の気象災害対策や気候変動への適応策を考えるきっかけとしてご利用いただけるよう、これらの内容をパンフレットに取りまとめました。

4. 参考資料については以下の URL よりご参照ください。

【パンフレット】：深刻化する豪雨～我々はどのようなリスクに直面しているのか～[PDF 約 21MB]

○海洋プラスチック汚染のモニタリングデータ及びデータベースの活用に向けた国際ワークショップの開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01259.html

2025 年 11 月 17 日、海洋プラスチックごみのモニタリング活動、データベース等によるデータ収集の状況及びこれらデータに基づく汚染実態把握等の各種研究や政策決定への活用方法に関する議論を目的として、国際ワークショップ「Utilization of monitoring data and database related to marine plastic pollution」をオンラインで開催します。

本ワークショップでは、海洋表層、水柱及び底質それぞれにおけるマイクロプラスチックの調査・モニタリングを実施している、あるいはモニタリングデータを用いた長期変動に関する研究

や、モニタリングデータベースの政策決定への活用等、様々な観点から研究やその実施に取り組んでいる研究者及び国際機関の専門家から発表を行います。

○エコアクション21ガイドライン 追補版～エコアクション21アドバンスト～の公表について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01296.html

1. 環境省では、平成29年4月に「エコアクション21ガイドライン2017年版」を策定し、中小企業における環境経営マネジメントシステムの構築・運営を支援してまいりました。
2. この度、エコアクション21取得企業からの声や国際的な潮流を踏まえ、現行ガイドラインの追補版として、GHGプロトコルに準じた「エコアクション21ガイドライン 追補版～エコアクション21アドバンスト～」を新たに策定しましたので、お知らせいたします。
3. このエコアクション21アドバンストについては、関連セミナーの開催による制度の普及促進を通じて、令和8年度の運用開始を目指しています。

※ エコアクション21について <https://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-5.html>

○「プラスマ・アワード2026」募集開始について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_20240614_1_00006.html

1. 環境省では、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、“プラスチックとの賢い付き合い方”を推進する「プラスチック・スマート」を展開し、多様な主体の取組について情報発信しています。
2. この度、企業や自治体等による優れた取組を令和7年12月月19日（金）まで募集します。
3. 特に優れた活動については、「プラスマ・アワード2026」として表彰するとともに、環境省のウェブサイトでの特集シンポジウム等で広く紹介することで効果的な取組を全国的に創出・推進することとしています。

○G20環境・気候持続可能性大臣会合の結果について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01337.html

1. 2025年10月16日及び17日、南アフリカ共和国・ケープタウンで、G20環境・気候持続可能性大臣会合が開催されました。
2. 会合では、南アフリカ共和国が議長を務め、「大気質に関するケープタウン閣僚宣言」、「環境に影響を及ぼす犯罪に関するケープタウン閣僚宣言」及び「議長サマリー」の3つの成果文書を取りまとめました。我が国からは、五十嵐日本国環境省大臣政務官が出席しました。

また、五十嵐環境大臣政務官は、合計7か国と二国間会談を行いました。

成果文書については、後日掲載します。

○Jリーグ公式戦「京都サンガF.C.対横浜F・マリノス戦」におけるモバイルバッテリー回収イベントの実施について～リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン～

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01468.html

<京都サンガF.C.、亀岡市同日発表>

1. 「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」の取組として、令和7年11月9日（日）にサンガスタジアム by KYOCERA（京都府亀岡市）で開催されるJリーグ公式戦「京都サンガF.C.対横浜F・マリノス戦」におきまして、リチウムイオン電池等による火災防止のためのイベントを開催します。

2. 当日は、亀岡市及び京都サンガF.C.の協力の下、環境省・亀岡市ブースでリチウムイオン電池について学べる間違探しやモバイルバッテリーの回収のほか、周知啓発パネル等の展示やアンケート調査を行います。

○脱炭素先行地域における電動建機を用いた試行作業の実施について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01467.html

1. 環境省では、電動建機の普及促進のために、様々なモデルケースの構築に取り組んでいます。
2. 本年度は、脱炭素先行地域※の一つである栃木県那須塩原市の協力を得て、令和7年10月22日より、電動建機を用いた試行作業を実施します。
3. 脱炭素先行地域に選定された地方自治体において電動建機を用いた事例は国内初です。

※ 脱炭素先行地域についてはこちらを御参照ください。

<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/preceding-region/>

○国連気候変動枠組条約第30回締約国会議閣僚級準備会合（プレCOP30）」が開催されました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01339.html

2025年10月13日から14日、ブラジル連邦共和国・ブラジリアにおいて、「国連気候変動枠組条約第30回締約国会議閣僚級準備会合（プレCOP30）」が開催され、高橋美佐子外務省気候変動担当大使（国際協力局審議官）ほかが出席した。

○「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）での炭素市場構築に関する国際会合」に係るレポートが公表されました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01473.html

＜経済産業省同時発表＞

東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）は、2025年10月23日（木）に、「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）での炭素市場構築に関する国際会合」に係る成果レポートを公表しました。本レポートは、本年5月と8月に、経済産業省が環境省と共に実施した同名の会合における議論の成果を取りまとめたものです。

○日本・マレーシア環境ウィークの開催結果について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01394.html

1. 2025年10月15日（水）から17日（金）にかけて、マレーシア・クアラルンプールで、マレーシア天然資源・環境持続可能性省とともに、テーマ別セミナー、ビジネススピーチ、ブース展示といった一連のイベントを一体的に開催する「日本・マレーシア環境ウィーク」を開催しました。
2. 環境ウィークには、小林史明環境副大臣、ダト・ドクター・チン マレーシア天然資源・環境持続可能性省次官、マイムナ クアラルンプール市長のほか、対面で約650名、オンラインで約230名が参加し、両国間での環境分野でのビジネス機会の創出に向けた議論が行われました。

3. またこの機会に、小林副大臣は第3回 AZEC 閣僚会合に出席しました。

○地域循環共生圏セミナー2025「見つけて、広げて、活かす！『観光・福祉・交通・教育』×『環境』の地域づくり」の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01421.html

1. 環境省では、地域が主体性を持って、環境だけでなく経済・社会に貢献する地域づくりを目指す「地域循環共生圏」の取組を進めています。

2. その一環として、観光・福祉・交通・教育など環境以外の分野を切り口に、地域づくりに取り組む多様な主体が環境の視点を加えることで新たな可能性を見出すとともに、地域循環共生圏の考え方を深める機会として全4回にわたりオンラインで地域循環共生圏セミナー2025を開催します。

3. 本セミナーを通じて、地域循環共生圏づくりの担い手の裾野を広げ、分野横断的な連携による持続可能な地域づくりを後押しします。

【開催内容（予定）】

日時：令和7年12月2日（火）、9日（火）、令和8年1月14日（水）、28日（水） 各回 15:00～17:00

場所：オンライン会議形式（Zoom）

○企業の脱炭素実現に向けた統合的な情報開示（炭素中立・循環経済・自然再興）に関する勉強会の開催と第1回勉強会（グッドプラクティス塾）の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01541.html

1. 環境省は、令和7年11月より企業の脱炭素経営をはじめ持続可能な経営の実現に向けた統合的な情報開示（炭素中立・循環経済・自然再興）に関する勉強会を全5回で開催します。

2. 令和7年11月26日（水）に第1回勉強会「グッドプラクティス塾～流域・サプライチェーン連携による水環境の保全・活用の促進～」をオンライン会議方式にて開催します。

○「令和7年度資源循環自治体フォーラム（地方版）」の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01472.html

環境省は、令和6年12月に循環経済に関する関係閣僚会議（第2回）で決定された「循環経済への移行加速化パッケージ」に基づき、循環経済の移行に向けて各般の施策を推進しております。

この一環として、廃棄物等を資源として有効に活用し、付加価値を生み出し、新たな成長につなげ、新規ビジネスの創出、地域課題の解決や地方創生につなげるため、先進的な自治体の取組事例の情報共有を行うとともに資源循環のテーマごとに自治体と企業が意見交換できる「令和7年度資源循環自治体フォーラム（地方版）」を、全国6地域で開催いたします。企業または自治体との連携や地域課題の解決、新規ビジネスの創出の機会に奮ってご参加ください。

なお、参加には事前申し込みが必要です。

※ 本フォーラムの全国版として、「第1回資源循環自治体フォーラム」を、令和7年9月12日（金）に、大阪にて開催いたしました。

「第1回資源循環自治体フォーラム」の開催について | 報道発表資料 | 環境省

○ バングラデシュにおける二国間クレジット制度（JCM）へのビジネス参画促進に関するフォーラムを開催します

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01567.html

環境省は、バングラデシュ環境・森林・気候変動省環境局との共催により、2025年12月7日（日）にバングラデシュ・ダッカにおいて、バングラデシュにおける二国間クレジット制度（JCM）のプロジェクト・マッチングとパリ協定6条実施推進に関するビジネスフォーラム

「Business Forum on JCM Project Matchmaking and Advancing Article 6 Implementation in Bangladesh」を開催します。

○ 令和7年度テレワーク月間について～デコ活アクション：テレワークの実践で柔軟な働き方を～

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_01550.html

1. テレワーク月間実行委員会（内閣官房内閣人事局、内閣府地方創生推進室、デジタル庁、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、観光庁、環境省、一般社団法人日本テレワーク協会、日本テレワーク学会）では、11月を「テレワーク月間」として、テレワークの普及促進に向けた取組を集中的に行います。

2. 「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）においても、「つながるオフィステレワーク（どこでもつながれば、そこが仕事場に）」をデコ活アクションの一つとして掲げ、脱炭素を含めて様々なメリットを有するテレワークを推奨しています。

◆ 経済産業省

○ 「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）での炭素市場構築に関する国際会合」に係る成果レポートが公表されました

⇒ <https://www.meti.go.jp/press/2025/10/20251023002/20251023002.html>

東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）は、10月23日（木曜日）に、「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）での炭素市場構築に関する国際会合」に係る成果レポートを公表しました。本レポートは、本年5月と8月に、経済産業省が環境省と共に実施した同名の会合における議論の成果を取りまとめたものです。

○ 第7回カーボンリサイクル産学官国際会議2025を開催しました

⇒ <https://www.meti.go.jp/press/2025/10/20251010002/20251010002.html>

経済産業省及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、10月10日（金曜日）、第7回カーボンリサイクル産学官国際会議2025を開催しました。

○ 会議においては、カーボンリサイクルの社会実装に向けて、国際連携の在り方、技術開発の課題や今後の展望、市場形成に向けたビジネスモデルについて議論が行われました。

また、本会議に併せて、専門家と大学生との交流会の開催やポスター展示による産学官でのCCU／カーボンリサイクルの技術・取組紹介を行いました。

◆ 農林水産省

○第13回「食品産業もったいない大賞」の受賞者決定！～「もったいないを生かす」農家レストランに農林水産大臣賞～

⇒ https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/250930_3.html

食品産業の持続可能な発展に寄与する食品関連事業者等を表彰する第13回「食品産業もったいない大賞」について、農林水産大臣賞、農林水産省大臣官房長賞など各賞の受賞者が決定しました。

「食品産業もったいない大賞」は、公益財団法人食品等流通合理化促進機構が主催、農林水産省が協賛して、食品産業の持続可能な発展に向け、「省エネルギー・CO₂削減」、「廃棄物の削減・再生利用」、「教育・普及」等の観点から、環境対策に取り組み、顕著な実績を挙げた食品関連事業者等を表彰する取組です。この度、第13回「食品産業もったいない大賞」の受賞者が決定しました。

◆国土交通省

○11月はエコドライブ推進月間です！！～地球と財布にやさしいエコドライブを始めよう～

⇒ https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000361.html

警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省で構成するエコドライブ普及連絡会では、11月を「エコドライブ推進月間」として、エコドライブの普及・推進を図っています。

エコドライブ（環境負荷の軽減に配慮した自動車の使用）の取組については、平成18年度に策定した『エコドライブ普及・推進アクションプラン』に基づき、警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省が連携し、普及推進を図ってきました。

エコドライブ普及連絡会では、引き続きエコドライブの普及推進を図るため、行楽シーズンであり自動車に乗る機会が多くなる11月を「エコドライブ推進月間」とし、シンポジウムや全国各地でのイベント等の積極的な広報を行うこととしております。

◆消費者庁

○動画 「食品ロスを削減する未来の技術を紹介【山形大学×ニチレイフーズ】」を公開しました。

⇒

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/online_community_movie/

○「令和7年度食品ロス削減推進表彰」受賞者決定

⇒ <https://www.caa.go.jp/notice/entry/043681/>

消費者庁及び環境省は、食品ロス削減・食品寄附促進の取組を広く国民運動として展開していくことを目的として、「令和7年度食品ロス削減推進表彰」を実施し、令和7年5月30日から7月31日まで募集を行い、たくさんの応募をいただきました。

この度、内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全)賞、環境大臣賞、消費者庁長官賞、環境事務次官賞、消費者庁次長賞、食品ロス削減推進表彰審査委員会委員長賞及び食品ロス削減推進表彰審査委員会特別賞の受賞者を決定しました。

○食品ロス削減に関する資料等（英語版）を掲載しました。

⇒ https://www.caa.go.jp/en/policy/consumer_education

The aim of consumer education is to guide consumers to acquire knowledge and skills, link them to appropriate behavior for safe consumer life. Consumer education also has an aspect as an activity of fostering people capable of coming forward to play a key role in society and contribute to its growth.

In December 2012, the Act on Promotion of Consumer Education came into force for the purpose of promoting consumer education in a comprehensive and integrated fashion.

The "Basic Policy on the Promotion of Consumer Education"(decided by the Cabinet, June 2013), which was developed pursuant to this Act, states that the national government and local governments should provide opportunities so that anyone, regardless of where he or she lives, can access consumer education in various settings, including school, home, community and workplace, throughout a lifetime from young age to elderly.

■各種情報・イベント等

■行政関係

◆青森県

○青森県アップサイクルフォーラムの会員企業を募集しています！

⇒ https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/sangyo/chikikigyo/upcycle_forum.html

◆宮城県

○「石巻環境フェア 2025」にブース出展します！

⇒ <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/junkan/3r/event-r7.html>

◆茨城県

○フードドライブについて

⇒ <https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/kankyo/foodloss/fooddrive.html>

◆埼玉県

○「チャレンジ省資源宣言」プレゼントキャンペーンを実施します

⇒ <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0507/news/page/news2025093001.html>

○県下一斉フードドライブキャンペーンを開催！～食品ロスの削減に取り組むとともに、地域の助け合いを目指します～

⇒ <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0507/news/page/news2025093002.html>

◆千葉県

○リチウム蓄電池の廃棄方法について

⇒ <https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/3r/lithiumdenchi.html>

○クリアホルダーの回収・リサイクルの取組について

⇒ <https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/press/2025/clearfile.html>

○令和 7 年度「チャレンジ省資源宣言」プレゼントキャンペーンを実施します

⇒ <https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/press/2025/9to7present-campaign.html>

◆東京都

○「江戸のこころで 食品ロスゼロ！キャンペーン」実施

⇒ <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/10/2025102415>

○「チャレンジ省資源宣言」プレゼントキャンペーンを実施

⇒ <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/09/2025093020>

○都の環境施策をわかりやすく紹介する冊子を作成

⇒ <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/09/2025092906>

◆神奈川県

○「チャレンジ省資源宣言」プレゼントキャンペーんを実施します

⇒ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/p3k/prs/r3969163.html>

◆新潟県

○令和7年版「新潟県の環境」（環境白書）を作成しました

⇒ <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kankyo/1190152926782.html>

◆石川県

○海ごみ対策啓発リーフレット（小学生向け）

⇒ <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/haitai/kaigan/leaflet.html>

◆滋賀県

○フリーマーケットへ行こう

⇒ <https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/other/334917.html>

○イベント・募集情報

⇒ <https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/334950.html>

◆京都府

○未利用資源の活用事例の紹介

⇒ <https://www.pref.kyoto.jp/suji/hondawarasyougatsu.html>

◆山口県

○「令和7年版環境白書」の刊行について

⇒ <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/322934.html>

◆徳島県

○「とくしま海岸清掃イベント実施支援事業」の募集について

⇒ <https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/recycling/7307914/>

◆佐賀県

○リチウムイオン電池等に起因する火災事故防止について

⇒ <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003116064/index.html>

◆宮崎県

○「みやざき食品ロス削減」パネル展を開催します！

⇒ <https://eco.pref.miyazaki.lg.jp/event/category/recycle/488.html>

◆仙台市

○令和7年9月の家庭ごみ量速報をお知らせします

⇒ <https://www.city.sendai.jp/haiki-kanri/kurashi/machi/genryo/chosa/data/sokuho.html>

◆千葉市

○千葉市のごみ量

⇒ <https://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/herasou.html>

◆横浜市

○地域コミュニティ型 「ボトル to ボトル」 水平リサイクル 神奈川大学の学生がペットボトル回収機のラッピングを考案

⇒ https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shigen/2025/btob_wrapping.html

○デジタルによる創発・共創のマッチングプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!」「プラスチックごみの可視化」のアイデア募集開始！

⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shigen/2025/1027Hack.html>

○「チャレンジ省資源宣言」プレゼントキャンペーンを実施します

⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shigen/2025/0930kyuutocampaign.html>

○ゼリー飲料の容器を回収、トングにリサイクルして ごみ拾いで活用します！

⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shigen/2025/0929jellyrecycle.html>

○日本初！リユースカップ式自動販売機の実証実験を開始します！

⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shigen/2025/0929reusecup.html>

◆川崎市

○ごみゼロカフェ「プラごみゼロでつくろう！明日のかわさき」

⇒ [https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/261-2-13-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html](https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/261-2-13-0-0-0-0-0-0-0-0.html)

○チャレンジ 生ごみダイエット

⇒ <https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/261-2-8-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

○【12/6（土）開催】生ごみコンポスト入門講座～家庭で取り組む SDGs～

⇒ <https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000169669.html>

◆相模原市

○プチプチリサイクルボックスの設置等を行います！

⇒

https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/033/937/1028/02.pdf

◆新潟市

○充電池使用製品による火災に注意！！

⇒ <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/gomi/oshirase/gomitokasai.html>

◆静岡市

○リサイクル図書事業「リユースライブラリ・本の輪」の開始

⇒ <https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56880/20251023002.pdf>

◆浜松市

○PASSTO で衣類・雑貨類をリユースしてみませんか？

⇒ <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/ippai/gomi/genryou/passto.html>

○「はままつ循環経済パートナーズ（HAMACEP）」制度を創設しました！

⇒ <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/ippai/hamacep.html>

◆京都市

○リユースイベントの開催（北区役所）

⇒ <https://www.city.kyoto.lg.jp/kita/page/0000320974.html>

○南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」環境学習プログラム（11月）のお知らせ

⇒ <https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000346349.html>

○11月22日「循環フェス@梅小路公園」の開催

⇒ <https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000346582.html>

◆堺市

○集めて、量って、リサイクル！「その他の古紙救出キャンペーン」参加者募集！

⇒ https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/gomi/gomi_recy/recycle/kosi-kaisyu/koshicampaign.html

◆神戸市

○～環境省「令和7年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」～ ローソン店舗でリチウムイオン電池の回収実証・資源ぐるりマップの公開

⇒ <https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/642131831235.html>

○こうべキエーロ「コーヒープロジェクト」スタート！

⇒ <https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/117970812430.html>

◆福岡市

○「AIを活用したプラスチック分別サービス」に係る実証実験を実施します

⇒ https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/keikaku/hp/plastics_bunbetu_ai.html

◆文京区

○小型充電式電池・小型充電式電池内蔵製品を窓口で回収しています

⇒ <https://www.city.bunkyo.lg.jp/b038/p000780.html>

◆墨田区

○【すみだ清掃事務所分室】自転車のリユース・リサイクル（海外供与）

⇒ https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/gomi_recycle/event_info/mukoujima-jitensya.html

○墨田清掃工場リニューアル計画を策定しました

⇒ https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/gomi_recycle/oshirase/sumida-renewalkeikak.html

○令和7年版 すみだの環境（令和6年度実績）

⇒

https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/kankyou_hozan/keikaku/keikaku_kankyou/aramasi.html

◆目黒区

○ごみ収集量・資源回収量

⇒ https://www.city.meguro.tokyo.jp/recycle/kusei/gaiyou/gomi_shigen.html

◆練馬区

○「第2弾ねりま食べきりキャンペーン」実施中 対象店舗を利用して景品をゲットしよう！

⇒ <https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/gomi/oshirase/tbekiri-campaign.html>

◆足立区

○食品ロス削減に取り組むお店を取材しました！

⇒ <https://www.city.adachi.tokyo.jp/gomi/202510syokuhinrosusyuzai.html>

◆函館市

○古紙類等の資源物の無料回収または買取を実施している事業者を紹介します！（令和7年10月24日からセブン-イレブンによるペットボトル回収開始）

⇒ <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2023040400041/>

◆川越市

○令和 7 年度 3R 推進とごみの散乱防止ポスター展

⇒ <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/gomi/1002421/1019313.html>

○リサイクルガラスアート講座

⇒ <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/gomi/1002469/1002474/1002479/1018900.html>

◆船橋市

○第 29 回ふなばし環境フェアの実行委員及び出展者を募集します

⇒ <https://www.city.funabashi.lg.jp/machi/kankyou/002/p099074.html>

◆柏市

○かしわ環境フェスタ 2025

⇒ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/zerocarbon/ecosite/ondanka/shimin/kashiwakankyofesta.html>

◆武蔵野市

○第 18 回 むさしの環境フェスタ

⇒

https://www.city.musashino.lg.jp/shisetsu_annai/musashinoshi_kanren/kurashi_seiso_kankyo/ecoresort/kankyofesta/1052765.html

◆横須賀市

○ 定日収集ごみの種類別排出量

⇒ https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4105/recycle/gomi_data/teijitu.html

◆鎌倉市

○食品ロスを削減しましょう

⇒ <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/gomi/foodloss202010.html>

◆大井町

○第 14 回大井町環境展開催のお知らせ

⇒ <https://www.town.oi.kanagawa.jp/soshiki/9/kankyouten.html>

◆亀山市

○市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量（目標値と実績値）

⇒ https://www.city.kameyama.mie.jp/docs/2024120300077/ijikanri_kouhyou.html

◆吹田市

○ペットボトルのリサイクル率向上をめざし「ペットボトルの水平リサイクル（ボトル to ボトル）推進事業」に関する連携協定を締結しました。

⇒ <https://www.city.suita.osaka.jp/sangyo/1018079/1018080/1040763.html>

○食品ロス削減講座「食とわクッキング」を開催します

⇒ <https://www.city.suita.osaka.jp/sangyo/1018079/1018080/1018423/syokutowa.html>

◆徳島市

○こどもごみゼロん！ニュース 2025 年秋号を作製しました

⇒

https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kurashi/recycle/gomi/gomiless/gomipamphlet_child/chilnews.html

◆長崎市

○ながさきエコライフ・フェスタ 2025

⇒ <https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/57841.html>

■団体関係

◆アルミ缶リサイクル協会

○イベント出展 「北区環境展 2025」に出展しアルミ缶のリサイクルの現状を勉強していただきました。

⇒ <https://www.alumi-can.or.jp/pages/127/>

◆(一社)環境衛生施設維持管理業協会

○大阪産業大学の学生がごみ処理施設を見学

⇒ <https://www.j-ema.com/new/2025/10/20/1752.html>

◆(公社)環境生活文化機構

○「2025年度持続可能な社会づくり活動表彰」の受賞者が決定しました

⇒ <https://www.elco.or.jp/pages/29/>

◆(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット

○磯子まつりに参加しました！

⇒ <http://www.genki-net.jp/news/3104/>

◆スチール缶リサイクル協会

○スチール缶リサイクル年次レポート 2025 を発行しました

⇒ <https://steelcan.jp/outline/outline03/>

○散乱防止・美化キャンペーンを京都市で実施しました

⇒ <https://steelcan.jp/2025/10/24/2025kyoto/>

◆(一社)全国清涼飲料連合会

○清涼飲料水容器のリサイクルに関する消費者意識調査 2025

⇒ <https://www.j-sda.or.jp/news/2025/10/15/post-1497/>

○第 10 回 ドリンクジャパン [飲料][液状食品] 開発・製造 展 全清飲共催のお知らせ

⇒ <https://www.j-sda.or.jp/news/2025/10/01/post-1454/>

◆(公財)日本産業廃棄物処理振興センター

○機関誌「JW センター情報」秋号発行のお知らせ

⇒ <https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/index.html>

○メールマガジン「JW センターNEWS」第 229 号発行のお知らせ

⇒ <https://www.jwnet.or.jp/info/mailmag/backnumber/no229.html>

◆(一社)プラスチック循環利用協会

○今までの「フロー図の見方、データの変遷」が新たに名称と内容を変更し「マテリアルフロー図見方と推算方法」としてリニューアル、パンフレットに掲載いたしました。

⇒ <https://www.pwmi.or.jp/news/new/post-2695/>

◆プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

○HP の活動日誌「プラっと探検隊」のコーナーに、「出張授業 品川区立日野学園」のレポートを掲載しました

⇒ <https://www.pprc.gr.jp/puratto-diary/index.html#002>

○HPの活動日誌「プラっと探検隊」のコーナーに、「容器文化ミュージアム 訪問」のレポートを掲載しました

⇒ <https://www.pprc.gr.jp/puratto-diary/index.html#001>

○HPの活動日誌「プラっと探検隊」のコーナーに、「(株)エフピコ関東リサイクル工場訪問」のレポートを掲載しました

⇒ <https://www.pprc.gr.jp/puratto-diary/index.html#001>

◆PETボトルリサイクル推進協議会

○「PETボトル再利用品カタログ」を更新し、公開しました。

⇒ <https://www.petbottle-rec.gr.jp/product/catalog/>

○統計データ「使用済みPETボトルの輸出状況」を更新しました。

⇒ <https://www.petbottle-rec.gr.jp/data/exportation.html>

○統計データ「PETボトルの再商品化実績」を更新しました。

⇒ <https://www.petbottle-rec.gr.jp/data/achievement.html>

○PETボトルリサイクル推進協議会の小学生向けコンテンツがEduHubに搭載

⇒ <https://eduh.jp/info/news/5672/>

■参加者募集

◆愛知県

○プラスチックごみ削減の取組を体験する「あいちプラごみ無くし隊」(第3回)の隊員を募集します

⇒ <https://www.pref.aichi.jp/press-release/20251028plasticwaste.html>

◆下関市

○しものせき環境みらい館の教室・講座について

⇒ <https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/gomi/133787.html>

■意見募集(パブリック・コメント)

◆福岡市

○循環のまち・ふくおか推進プラン改定版の原案について市民意見を募集します

⇒ <https://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/kouhou-hodo/hodo-happyo/2025/documents/20251022zyunkannomatifukuokaitibukaiteiban1024to1125.pdf>

■その他募集

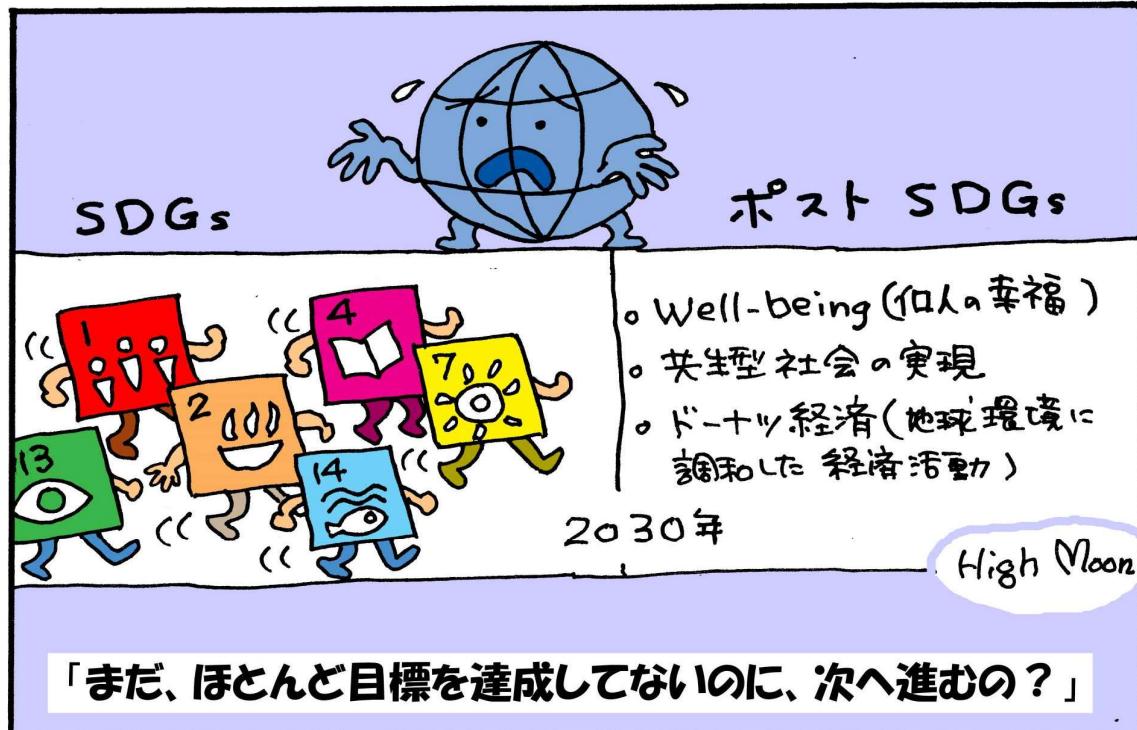
◆京都市

○京都市営地下鉄「食品ロス対策自販機」パン等の販売 協力事業者の募集について

⇒ <https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000344678.html>

第23回：ポストSDGs（ゴミック新作集18-9）

国連「持続可能な開発目標（SDGs）報告2024」において、SDGs ターゲットのうち達成に向けた軌道に乗っているのは、わずか17%であり、半数近くは最低限か、わずかに進捗の状況が提示された。そんな中でも、ポストSDGs（2030年以降の理念や目標）に向けた議論が盛んである。ポストSDGsのキーワードはWell-being（個人の幸福度）、共生社会（異なる人々が共存できる社会）、ドーナツ経済（地球の限られた環境の中での経済活動）などが提案されている。しかし、ポストSDGsの議論の前に、やはり、まずは、SDGsの目標達成の努力をするべきである。



作者註：最近、ポストSDGs（2030年以降の理念や目標）の議論がさかんです

「連載：3R・気候変動マンガ集」には、毎回、3R分野と気候変動分野にちなんだ作品を「ハイムーン工房ギャラリー」の「ゴミック新作集」（<https://highmoonkobo.net/>）からピックアップして紹介します。

なお、ハイムーン氏は氏が作成したマンガ、イラストについては基本的には著作権主張されず、むしろ多くの人に活用されることを望んでおられます。例えば、環境NPOのニュースレター、各自治体の廃棄物対策用啓発パンフレット、教育現場での教材などには、紙媒体だけでなく電子媒体でも活用可能です。イラスト利用の場合は出来れば「ハイムーン工房のホームページより」などと出典を明記していただければ幸いです。但し、企業の営利にかかるものへの活用はお断りされています。

また、ハイムーン工房のギャラリー作品は一つの作品に3つの解像度（オリジナル、中サイズ、小サイズ）のものを用意されていますので、要望に合わせてダウンロードして活用ください。

作品についてのさらなる要望（たとえば白黒画像など）があれば、直接、ハイムーン氏へ下記電子メールで連絡してください。

■プロフィール：高月 紘

【略歴】1941年京都府生まれ。1965年京都大学工学部卒業、1977年京都大学工学博士、1985年京都大学環境保全センター教授。京都大学名誉教授 工学博士（廃棄物処理）。

京エコロジーセンター前館長。公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 前理事長。日本漫画家协会会员。

【>Contact】ハイムーン工房：URL <http://highmoonkobo.net/> 電子メール：em.highmoon@gmail.com

1. JCCA からのお知らせ

【環境学習支援ツール】地球温暖化まなび BOX の公開について

<https://www.jcca.org/news-info/371031>

JCCA（全国地球温暖化防止活動推進センター）では、気候変動教育の導入促進に向けて、Gakken と共同で「地球温暖化まなび BOX」を開発しました。

本ツールは、「気候変動教育を始めたいが方法がわからない」という教員向けに作られた教材で、授業で手軽に活用できます。

本日より、本ツールを公開いたしましたのでご案内申し上げます。

下記ページよりアクセスいただけます。

<https://www.jcca.org/climate-change-education/manabi-box>

※教材のダウンロードには、利用登録フォームへの入力が必要となります。

「地球温暖化まなび BOX」は、授業などで気候変動教育を手軽に始められるように設計した教材です。ぜひ環境教育の現場でご活用ください。

未来の地球を守る教育の普及に向けて、皆さまのご支援とご協力を賜れると幸いです。

2. 温暖化関連イベント情報

【参加登録受付中】「気候変動アクション日本サミット 2025」開催のご案内

https://www.jcca.org/event_info/384736

京がつづくカレッジ「環境対応」から「環境を活かす」経営へ開催のお知らせ

https://www.jcca.org/event_info/388354

公開セミナー「鉄鋼脱炭素化に向けて：世界の潮流・日本の挑戦」開催

https://www.jcca.org/event_info/389512

【参加無料】「気候変動適応サイエンスカフェ」のお知らせ

https://www.jcca.org/event_info/385682

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2025 開催のお知らせ

https://www.jcca.org/event_info/385719

<お願い>

JCCA ウェブサイトでは、温暖化関連イベントの情報を掲載しています。

掲載希望のイベントがございましたら、下記の URL からご連絡をお願いいたします。

<https://www.jcca.org/otoiawase/event-form>

~~~~~

発行者：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCA）

<https://www.jcca.org/>

---

---

## □■今月の一枚■□

東北新幹線が東京駅を発ち、大宮駅到着の車内アナウンスが流れたとき、車窓から遠方の美しい夕焼けを、ノーアインダー撮影していた私の携帯電話のカメラのモニター画面に、夕焼け空に映える富士山のシルエットが飛び込んできました。感動して思わずカメラのシャッターボタンを押し続けました。

衛星観測から作成された標高分布のデータを用いて、富士山の可視領域を地形図上に表してみると、関東地方のほぼ全域、新潟県や長野県、三重県の志摩半島、さらに遠く紀伊半島先端の潮岬まで広がります。あくまでも地形上ですが、手前に高い山が無く、平野や海が広がっていれば見えるようです。

富士山が靈峰として崇められ、不老不死の神仙の地として信仰され、自然の美しさと精神的な象徴として、日本の文化的にも重要な存在であるのは、広いエリアから見ることができることも理由の一つになっているのでしょうか。



写真撮影・文責：村岡良介  
大宮市内を走行する新幹線車窓より撮影

---

---

## □■編集後記■□

11月3日に、東京地方と近畿地方では昨年より4日早く木枯らし1号が吹きました。ここ数年は、延々と猛暑が続くと思ったら急激に寒くなるといった温度の落差が激しく、春と秋が短くて、夏と冬が長くなる二季化が進んでいると言われています。その原因として、地球温暖化による日本列島周辺の海水温の上昇があげられています。地球温暖化対策には、緩和策と適応策がありますが、健康管理や衣替えも適応策となるのでしょうか。

お気に入りの画像にメッセージを添えて、「今月の一枚」を投稿しませんか？

「合格者の声」の投稿も歓迎します！

本ニュースレターを読者の皆様ご自身の活動紹介や情報発信、交流の場に活用してください。

編集メンバー：浅利美鈴（総合地球環境学研究所）、村岡良介（日本環境衛生センター・村岡環境カウンセラーサービス）、山田大智（京都大学）

協力：3R・資源循環推進フォーラム、全国地球温暖化防止活動推進センター

◆一般社団法人 持続可能環境センター◆

〒604-8874 京都市中京区壬生天池町 27-4 Tel : 075-708-8144 FAX : 075-708-8153

◆ 3 R・気候変動検定 検定事務センター◆

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-16-13 堺筋ベストビル 9 階 一般財団法人 環境事業協会内

電話 : 06-6210-1720 Website: <https://3r-cc.jp> E-mail : [ex@3r-cc.jp](mailto:ex@3r-cc.jp)

Instagram ID: @3r\_kikouhendou\_kentei: ([https://www.instagram.com/3r\\_kikouhendou\\_kentei/](https://www.instagram.com/3r_kikouhendou_kentei/))

X (Twitter) ID: @3r\_lcs\_kentei ([https://twitter.com/3r\\_lcs\\_kentei](https://twitter.com/3r_lcs_kentei))

Facebook ID: @3r・気候変動検定 (<https://www.facebook.com/3rteitanso/>)

受付時間 9:00-17:00 (12:00-13:00 を除く) 休業日: 土・日・祝・年末年始 (12月28日~1月5日)